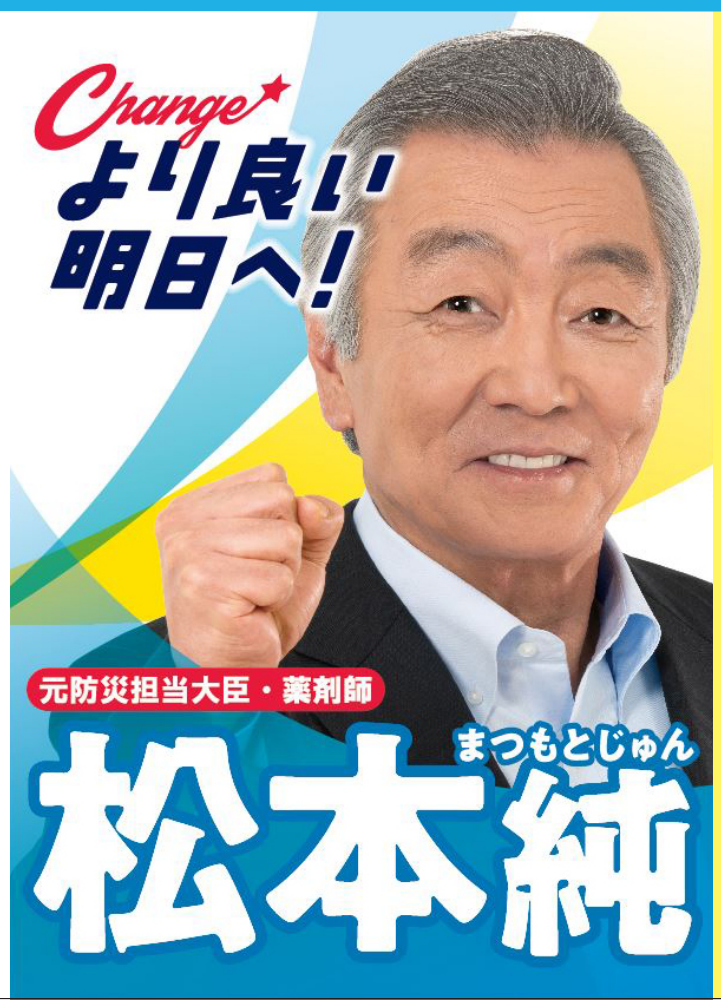
LIBERAL&DEMOCRATIC 自由民主

号外

発行所
自由民主党本部
郵便番号 100-8910
東京都千代田区永田町 1-11-23
電話 東京 03(3581)6211(代表)
〈毎週火曜日発行〉
自由民主党ホームページ URL http://www.jimin.jp/

命を守る！ 改革は不断、しかし守るべきものは守る



政策実現は与党でなければできない

命を守るI

小泉「構造改革」、危機に揺らいだ消防行政の中で

20年前の二〇〇四年、小泉純一郎政権は「聖域なき構造改革」を打ち出し、「改革」という言葉は国民的人気を集めていました。

当時松本純は、麻生太郎総務大臣の下で総務政務官（消防担当）を務めていました。その年は、集中豪雨など大規模災害が相次ぎ、10月には新潟県中越地震が発生しました。「被災地に行った際には不眠不休で救命・救助に取り組む消防隊員や消防団員の姿に頭が下がる思いでした」（松本）。

全国の消防本部や消防団を統括する消防庁では、救護体制強化の取り組みが急を要していました。

しかし、事態は思うようには進みませんでした。行政の肥大化と無駄の削減を掲げる小泉内閣は、政府に有識者会議、自民党内に行革推進本部を設置し、独立行政法人の見直しに拍車をかけ、その手は消防庁直属の研究開発法人「消防研究所」へと及んできました。

林省吾元消防庁長官と

消防研究所とは、災害時、現地に入り、火災や災害の教訓から得られた知見を生かすための調査・研究を行う機関。豊富に蓄積された情報を駆使する災害調査のプロ集団ともいえ、まさに消防行政の頭脳でもありました。

当時の林省吾消防庁長官はこう振り返ります。

「国民の命を守ることは国の責務です。民間に任せてはその役割は果たせません。私たちはそれを必死に訴えましたが、有識者会議と自民党の行革本部は聞く耳を持ちませんでした。『他の研究機関との統合』と『非公務員化（民営化）』を決定したのです」。

決着まで時間のない中、途方にくれた林長官のとった最後の手段が松本純政務官でした。

松本に窮状を訴えたところ、即決断し、麻生大臣が出張から戻ってくる隙間を捉え羽田空港控室で消防研究所の民営化「断固阻止」を二人で熱心に訴えました。

数日後、林長官の元へ麻生大臣から連絡が入りました。「『消防研究所は消防庁に残すことになった。定数を半分にすると言っているが、いいな』とおっしゃるので『やむをえません』と返答しました」。

「松本政務官が熱意を持って説得して下さったおかげで麻生総務大臣が政府や自民党の中枢に働きかけてくれました。当時より大規模災害が多発し、人的被害が拡大する昨今消防研究所が民営化されていたら、今ごろどうなっていたことか…」（林）。

松本純も当時を振り返ります。

「『改革』が必要な時代だとしても、守るべきものは守らなければなりません。とりわけ、国民の命に直結する事案は国が責任を持たねばならない。それを地方自治体や民間任せにするのは国の責任放棄だと、『あの時』思いを新たにしました」（松本）。

命を守るII

クスリの供給不足で医療提供者も混乱

薬剤師・松本純は、安全で有効なクスリを創る、そのクスリを皆様にお届けし、安心して服薬していただくまでの「薬業」をライフワークの一つとし、皆様に健康・安心をお届けしてきました。しかし、いま大きな課題に直面しています。

●クスリの供給不安が解消していません

特にジェネリック医薬品の供給が滞っています。根本的な解決が必要です。これまでの新しい技術を使った製法を速やかに可能とする規制が追い付いていないこと、また中国の創薬が台頭してきていることも検討課題です。

●クスリの低価格化も問題です

古くから親しまれたクスリの価格が下がりすぎて供給のコストが見合わなくなっています。企業が自立して収益を上げ、その収益を次のクスリの創製につなげる、成功の循環を生み出さなければなりません。日本は、世界有数の創薬国です。企業の海外進出を応援し、日本の企業の活躍できる環境づくりを整備することが重要です。

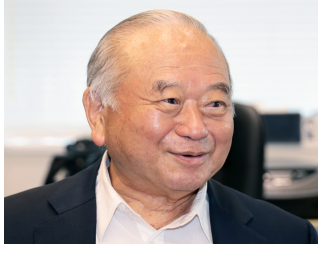
●なぜ今、「創薬力」の強化が必要か

二〇一九年に発生した新型コロナウイルス感染症に対し、国産ワクチンの開発が出遅れました。これまでの新しいバイオ技術導入への挑戦が足りなかったためです。

創薬の本質は、科学技術の英知の結集です。大学や研究機関、製薬企業、投資家、規制が連動して機能しなければなりません。これらの垣根を越えて、日本全体で人財や技術のクラスターを大きく一体化させる、これが政治家としての私の仕事です。

消防団等にエール！

日本消防協会 **秋本敏文会長**



「松本純さんとは長いお付き合い」「地域を守り、国民の命を守る消防団・消防隊員の『奉公』（伊藤博文・言）精神に深い敬意を表します」

松本 純 まつもと じゅん プロフィール

1950（昭和25）年４月11日
横浜市中区生れ

野毛山幼稚園、横浜市立本町小、
聖光学院中・高、東京薬科大卒

薬剤師

横浜市会議員（3期）
衆議院議員（7期）
　総務大臣政務官
　内閣官房副長官
　衆議院厚生労働委員長
　国家公安委員会委員長
　領土問題担当大臣
　国土強靭化担当大臣
　防災担当大臣
　消費者及び食品安全担当大臣
　海洋政策担当大臣
　などを歴任

【現在】
自民党神奈川１区支部長
（横浜市中区・磯子区・金沢区）
東京薬科大学薬学部客員教授

今までもこれからも 地元に寄り添う代弁者でありたい

これから取り組む課題

命を守る
- 防災対策のさらなる拡充
- 医薬品不足の解消
- コロナの反省を忘れない感染症対策
- 日本創薬力再生プランの実現

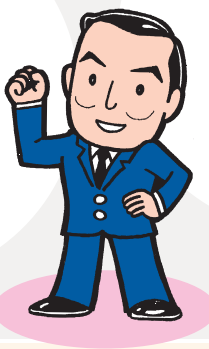
暮らしを守る
- 物価高対策
- 世帯所得を増やすため１０６万円の壁対策の改善
- 医療・年金・介護・子育てなど社会保障制度を堅持

生業を守る
- 働き方改革の改善
- 事業承継制度の恒久化

中区・磯子区・金沢区
共通の課題解決に
取り組みます

地域に合った
防災・減災、
防犯・交通安全対策で
安全・安心なまちへ

子育て支援、
高齢者福祉を充実させ、
誰もが
住みやすいまちへ



政策実現へ一つひとつ願いが叶う

▲旧長濱検疫所1号停留所を移設保存、海の公園南口側に再構築工事中（2024年）

▲本牧地区国道357号東京湾岸道路開通
八幡橋・根岸周辺の交通渋滞、
健康被害が解消（2016年）

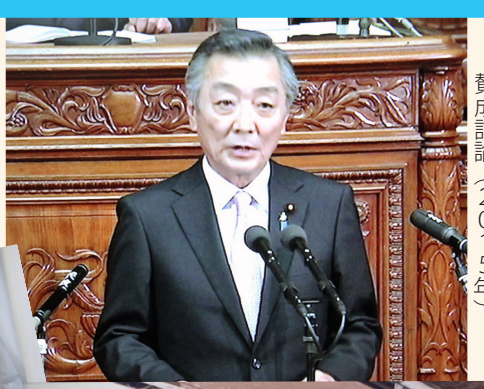
▲本牧ジャンクション改良工事完成で
移動時間が大幅短縮（2004年）

◀「議員年金廃止法案」に賛成討論（2006年）

◀オバマ大統領と。官房副長官として日米首脳会談に随行（2009年）

▲金沢区三師会館（休日診療所）
建替え決定、現在は工事中につき
仮診療所で運営（2024年）

◀党障害者特別委員会事務局長として「障害者差別解消法案」成立に尽力（2013年）


◀「平和安全法制関連法案」に賛成討論（2015年）

◀コロナの反省を忘れない（2020年）

▲事業承継税制整備に尽力、経済界からも感謝の声が（2018年）

▲新潟県中越地震、皆川優太君救助で笑顔がもれる(2004年)

▲『日本社会の処方箋』
上梓（2020年）